



Title	私の一日
Author(s)	神庭, 芳男
Citation	makoto. 1973, 3, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86274
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

私の一日

淀川長治さんがテレビのコマ
ーシャルで「無神経な人がおり
ますネ。駅員が向こうの方で掃
除しているのに、ホームにたば
こをポイッと捨てた人がいるん
ですよ」と、公衆道徳の高揚を
訴えているのを見たことがあります。

最近では、どこの電鉄でも、ほ
とんど掃除は、専門の業者に下
請けさせているのが実状だと思
います。

その電鉄会社のホームや電車
内を清掃するのが今の私の仕事
です。職場は、日電鉄の中でも
乗降客のかなり多いJ駅です。

京都、千里、宝塚、神戸、須磨
方面への乗り換え客をふくめて
一日の乗降客は、ざっと三〇万
人を越え、朝のラッシュには、
七本もあるホームは、こぼれ落
ちんばかりに人びとがあふれて
います。そんな人ごみの中を、
ちり取りとほうきを手に、清掃
作業を進めていきます。急ぐ乗
客と正面衝突をし、しりもちを
つく。足を踏まれる。けられる。
バカ野郎とどなられる。血走っ
た人波の中での清掃作業は、ま
るで戦争状態といつてよいくら

いです。

三人が一生懸命に仕事をして、
七本のホームを清掃するのに三
時間以上もかかります。ホーム
の清掃がすむと、次はプラスチ
ックのかごを引っぱって、各ホ
ームのちり箱や吸いが入れの
ゴミ集めをします。中からは読
み捨ての新聞、鼻紙、果物くず、
酔っぱらいの汚物の包み、スリ
が捨てたカラ財布など、いろい
ろなものが出てきます。ときに
は、たばこの火を消さずに、ほ
うりこまれたために、集めたゴ
ミがくすぶり出すこともままあ
ります。

このような仕事をしていて、
私はつねに心の中で、何十万人
の中には、たとえ少しの人でも、
私たちの仕事を理解して下さる
人もある。恥しがることなく、
これは私に与えられた天命とし
て、皆様の乗り降りする駅を、
きれいに、美しく、そして気持
よく利用していただくことを私
の信条として、働けなくなるま
で、ほうきとちり取りに生命を
かけ、生がいの業務と誇りを持
っております。

また、いつも私は、自分の仕

事をおして、日本人は、もっ
と公衆道徳の向上に努めなけれ
ばならないと思います。このさ
い、GNP世界第二位といわれ
ているとき、公衆道徳も世界第
三位ぐらいになってほしい、い
や、するべきだと思うのは私ば
かりではないと考えております。
第一事業部
神庭芳男